学校での対応についてアンケートに記入して
子どもたちが安心して学校生活を送れるようにしましょう

氏名：

学校での対応アンケート

児童・生徒
保護者と
話し合って
記入しましょう

2 型糖尿病であることを
クラス全体に公表しますか？

☐ 公表する　　☐ 公表しない
☐ 学年にも公表する

学校での治療について

☐ 飲み薬（ 昼食前　or　昼食後　or　時間指定（　　：　　）
　飲む場所（　　）
☐ インスリン注射（ 昼食前　or　昼食後　or　時間指定（　　：　　）
　注射を打つ場所（　　）
　注射の保管場所（　　）
☐ 血糖値測定（ 昼食前　or　症状のある時
　測定する場所（　　）
☐ 食事（ おかわり禁止 or その他（　　）
☐ 学校では治療の必要はありません
☐ その他（　　）
☐ 自宅での治療について（　　）
　学校では注射や薬をもちいなくても、家で注射を打つ場合は情報を共有しましょう

低血糖対策

☐ 低血糖になりそうなときや、なったときは、次のような対処をお願いします
　（　　）にある（　　）を食べさせたり飲ませたりしてください
☐ 低血糖になる可能性の治療はしていません

緊急連絡先

その他特記事項

【制作】認定特定非営利活動法人日本ＩＤＤＭネットワーク
【監修】堀田優子（PL病院小児科 医長）川村智行（あべのメディカルクリニック 院長）
このパンフレットは、テルモ生命科学芸術財団の助成を受けて制作しました。　K2M2605



教師のための
2 型糖尿病対応マニュアル

2 型糖尿病の子どもたちには、どう対応すればいいの？
どんな症状が出るの？　ふだんの学校生活では何に気をつけるべきなの？
そんな教師の疑問、悩みにお応えするパンフレットです。

IDDM
「治らない」から「治る」へ
認定特定非営利活動法人
日本 IDDM ネットワーク



糖尿病は、一般に大人の生活習慣病だと思われていますが、さまざまな要因によって、子どもでも発症します。
糖尿病には１型と２型があり、その対処法も異なります。ここでは２型糖尿病の児童・生徒に対する学校生活における対処法をお伝えします。

教師が特に留意するべきことは

ココがポイント✔

＊治療を児童・生徒に継続させる

＊治療法を保護者、医療スタッフに確認する

＊学校生活の中での対処方法を保護者に確認する

糖尿病とは

人がとった食事は、分解されてブドウ糖になり、血液中に入ります。
血液中のブドウ糖は、膵臓から分泌されるインスリンを介して、
全身の細胞に取り込まれエネルギー源になります。インスリンが
足りなくなると、ブドウ糖が細胞に取り込まれなくなり、エネルギー
不足になるとともに血液中のブドウ糖濃度（血糖値）が上がります。
これが糖尿病です。

２型糖尿病の症状と治療継続の重要性

病気が進行すると、のどが渇く・尿が増える・体重が減るなどの
症状が出ますが、多くは症状がありません。しかし、症状がない
からといって放っておくと、慢性合併症につながり、症状が出た
ときには元の状態に戻れなくなっていることもあります。
三大合併症と呼ばれる網膜症・腎症・神経症を発症することもあり、
進行すると失明や人工透析になることもありえます。
ですから、症状がなくても定期的に通院し決められた治療を続ける
ことが大切です。きちんと治療し血糖コントロールを保てていれば、
普通に日常生活や学校生活を送ることができます。ですから児童・
生徒が通院を継続するように指導することも必要です。

生活習慣の改善をサポートしましょう

２型糖尿病の発症には、環境や遺伝、体質の関与も大きく、肥満や
運動不足のみが発症の要因とはいえませんが良好なコントロールを
維持し将来の合併症を予防するためには、肥満にならないことや
肥満を改善することが重要であることも事実です。２型糖尿病の
予防と治療には、生活習慣を改善し維持することが必要で、
そのためには家族や学校など周囲の人によるサポートが大切です。

低血糖の症状・対処

低血糖とは、薬が効きすぎて血糖値が低くなりすぎた状態です。
２型糖尿病の場合、低血糖になることはほとんどありませんが、
インスリン注射をしていたり、インスリン分泌を促進するタイプの
薬を服用している場合には稀に生じることがあります。
低血糖症状は、空腹感、倦怠感、あくび、集中力低下、不機嫌、ふるえ、
頭痛、顔面蒼白など。人によって非常にさまざまな症状があります。
進行すると意識障害やけいれんが起きますが、初期のうちに対処すれば
まず起こることはありません。低血糖の訴えがあれば、我慢させずに、
子どもの求めに応じてすぐに補食をしやすい環境をつくることが
求められます。万が一意識障害やけいれんが起こった場合は落ち着いて
救急車を呼んで保護者に連絡しましょう。

子どもの症状によって対処法も変わります

学校生活や学校行事への参加に制限はありませんが、治療法によって
対処法も変わります。糖尿病の児童・生徒がふだんどのような治療を行なって
いるか、保護者や医療スタッフに確認してください。
食事療法・運動療法だけの場合は、低血糖症状に陥る危険性はありません。
ただし、高血糖には留意する必要がありますから、給食に関してはおかわり禁止
などの制限が必要な場合もあります。かならず保護者に確認してください。
体育や運動会など、授業や学校行事への参加には制限や注意は必要ありません。
内服薬治療の場合は保護者に確認し、給食後に薬を飲ませるなどの対応を。
インスリン注射が必要な場合は、保護者に確認し、保健室や教室などで
血糖値測定、インスリン注射など必要な処置を行わせてください。

クラスへの公開について

２型糖尿病の場合、クラスに公開の必要は基本的にはありません。
低血糖の発生の可能性がある場合、受診のために頻繁に欠席、早退を
繰り返すなどの場合は、病気の公開をした方が学校生活をスムーズに
送れることもあります。いずれにせよ、病気を他の児童・生徒へ公開するかは、
本人の意思を尊重してあげてください。 本人の病状や学校での治療法、性格、
クラスの雰囲気など、状況はさまざまですので、公開するべきかどうか、
どこまで話すべきか一概には言えません。公開する場合、正しい知識をもとに、
誰が、誰に対して、どんな方法、どんな言い方で、どこまで説明するかを、
本人や保護者と話し合って決めることが必要です。
間違った知識や偏見によるいじめなどが起こらないよう配慮して説明し、
常時いじめなどが起こっていないかを見守っていただきたいと思います。

糖尿病児童・生徒への対処法で悩んだら

糖尿病の児童・生徒への対処法で迷ったり悩んだりした場合は、
私たち「日本 IDDM ネットワーク」になんでもご相談ください。
ご相談はメールにて受け付けています。下記メールアドレスまでご相談ください。
info@japan-iddm.net



2型糖尿病の子どもたちにはどう対応すればいいの？

病気の症状と治療継続の重要性

生活習慣の改善をサポート

クラスの友だちにはどこまで説明すべき？

2型糖尿病児童・生徒の学校生活